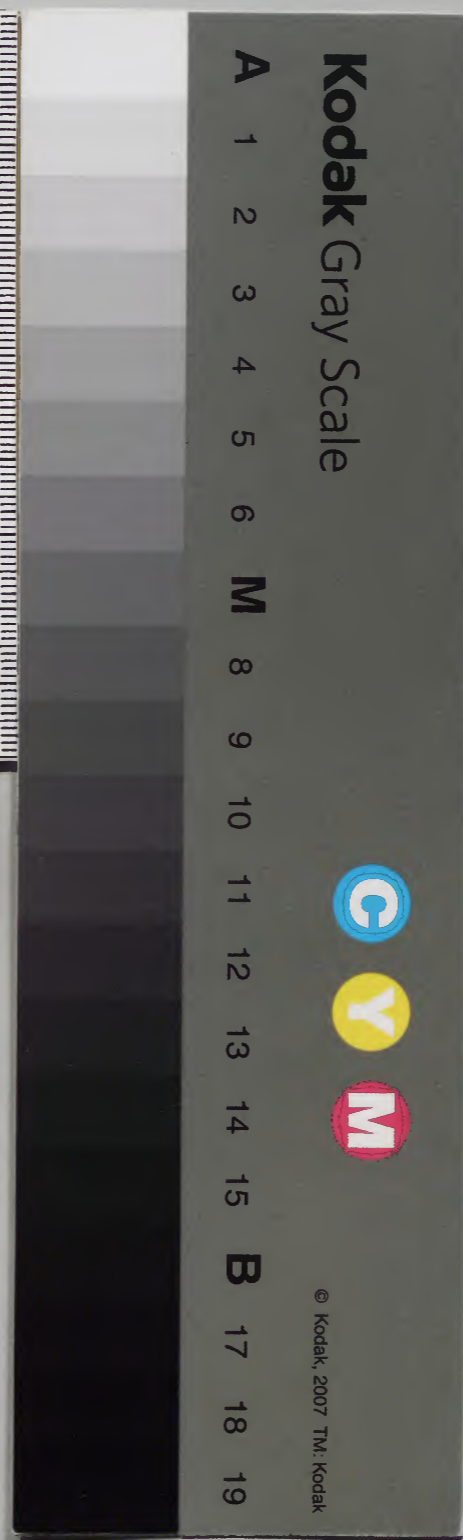


官刻 孝義錄 上野 下野

十一

庫文内			
五	二	一	和
七	五	四	書
函	冊	號	類
二	〇	一	
二	架	冊	

内閣文庫	
番號	和 11141
冊數	50 (11)
函號	157 397



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり
綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

孝義錄卷之十一

上野國

奇特者

行代官支配所
群馬郡下澗村

奇特者

同支配所
新田郡尾島村

孝行者

同支配所
邑樂郡板倉村

孝行者

同支配所
同所

孝行者

同支配所
甘樂郡麻生村

○孝行者

同支配所
甘樂郡馬山村

孝義錄卷之十一

名主

天田善玄湯

寛政五年
御褒賞

名主

又市

寛政六年
御褒賞

百姓

市原屋

寛政六年
御褒賞

市原屋妻

市

同時
御褒賞

百姓

若之助

寛政六年
御褒賞

百姓

清太郎

寛政六年
御褒賞

奇特者
日支配所
甘樂郡小平村

奇特者
日支配所

奇特者
日支配所

奇特者
日支配所

奇特者
日支配所
准水郡板鼻町

奇特者
日支配所
拜馬郡上新田

奇特者
日支配所
松平久五郎領分
館林城下枝木町

奇特者
日支配所
館林城下塚場町

奇特者
日支配所
館林城下連雀町

孝行者
日頃
邑樂郡門俣村

孝行者
日頃
邑樂郡谷根村

孝行者
日頃
邑樂郡谷根村

孝行者
日頃
邑樂郡谷根村

孝行者
日頃
邑樂郡吉柳村

孝行者
日頃
邑樂郡小桑村

孝行者
日頃
邑樂郡小桑村

元名主

若主

本陣
本陣
本陣

若主

町人

新藏
寛政六年
日時

若主
日時

年寄
日時

百姓代
日時

花内
寛政七年
日時

金七
寛政十年
日時

又市
宝曆三年
日時

十左衛門
日時

六右衛門
日時

赤平次
寶曆五年
日時

浪玄揚
寶曆七年
日時

三右衛門
寶曆七年
日時

五左衛門
明和五年
日時

九右衛門
日時

三右衛門
明和七年
日時

不右衛門
安永九年
日時

孝義録卷上

二

孝行者

日領 邑樂郡南大橋村

百姓

安玄清

安永九年 褒美

孝行者

日領 邑樂郡清永塚村

百姓新助

清茂

天明元年 褒美

孝行者

日領 館林城下塚場町

町人 赤木右兵衛

忠有馬

天明四年 褒美

孝行者

日領 館林城下朝町

町人

儀八

天明六年 褒美

孝行者

日領 邑樂郡下早川田村

百姓 清右衛門

左左馬

寛政元年 褒美

孝行者

日領 勢多郡堀根村

百姓

何平

寛政元年 褒美

貞節者

日領 勢多郡堀根村

百姓 佐左衛門

シ

寛政元年 褒美

孝行者

日領 山田郡唯上村

百姓 惣七郎

常吉

寛政元年 褒美

孝行者

日領 日所

高深寺下男

幸七

日時 褒美

忠孝者

日領 邑樂郡堀根村

百姓 左衛門

孫若馬

寛政元年 褒美

孝行者

日領 山田郡東長尾村

百姓 左衛門

幸右馬

寛政元年 褒美

孝行者

日領 日所

町人 赤木清良

幸七

日時 褒美

孝行者

日領 館林城下振治町

町人 赤木清良

幸七

寛政元年 褒美

孝行者

日領 日所

町人 赤木清良

幸七

日時 褒美

孝行者

日領 館林城下其美町

町人 赤木清良

清次郎

寛政元年 褒美

孝行者

日領 館林城下片町

町人 赤木清良

清次郎

寛政元年 褒美

孝義録卷下

三

孝行者 日頃

孝行者 日頃 鉸林城下並木町

孝行者 日頃 鉸林城下本陣屋町

孝行者 日頃 鉸林城下目車町

孝行者 日頃 鉸林城下目車町

孝行者 日頃 鉸林城下塚場町

奇特者 日頃 邑樂郡古根町

孝行者 日頃 邑樂郡高根村

奇特者 日頃 邑樂郡舊以領分

奇特者 日頃 邑樂郡下長根村

孝行者 日頃 邑樂郡上高根村

孝行者 日頃 邑樂郡大葉村

孝行者 日頃 邑樂郡黒岩村

孝行者 日頃 邑樂郡藤村

孝行者 日頃 邑樂郡舊督領分

孝行者 日頃 郡馬郡下室田村

日頃

町人半助將

町人

町人

町人

町人

町人

百姓佐室高根

七十一 日時 喪次

平右衛門 三十一歲 寬政元年 喪次

十右衛門 三十歲 寬政元年 喪次

文右衛門 三十歲 寬政元年 喪次

九右衛門 二十八歲 寬政元年 喪次

七 三十歲 寬政元年 喪次

九右衛門 三十一歲 寬政元年 喪次

七 十四歲 寬政二年 喪次

老太郎 死後 天明四年 喪次

若松 五十六歲 天明四年 喪次

長尾 三十三歲 天明七年 喪次

新松 二十六歲 寬政二年 喪次

伊左衛門 二十九歲 寬政二年 喪次

若助 死後 寬政二年 喪次

勇七 五十一歲 寬政元年 喪次

勘左衛門 六十一歲 寬政元年 喪次

孝行者 日所領

孝行者 日所領

孝行者 日所領 郡波那下茂木村

孝行者 日所領 松平大智領分 群馬郡大久保村

孝行者 日所領 群馬郡若搦田新町

忠義者 日所領 群馬郡系之郷

孝行者 日所領 群馬郡若搦大門町

孝行者 日所領 群馬郡熱田西本町

貞節者 日所領 群馬郡上泉村

孝行者 日所領 群馬郡若搦細沢町

孝行者 日所領 群馬郡若搦細沢町

孝行者 日所領 群馬郡若搦田新町

孝行者 日所領

奇特者 日所領 群馬郡大久保村

奇特者 日所領 群馬郡熱田町

奇特者 日所領 群馬郡三保村

勲功者

法皇 日時 慶長

基太郎 日時 慶長

深田 日時 寛政元年

十九郎 日時 寶曆三年

利七 日時 寶曆六年

七年 日時 寶曆八年

富太郎 日時 寶曆十一年

法正 日時 明和四年

かの 日時 明和六年

傳之助 日時 明和六年

文右衛門 日時 明和六年

さし 日時 安永五年

志由人 日時 慶長

中橋守右衛門 日時 天明元年

三雲源太左衛門 日時 天明元年

玄蕃 日時 寛政元年

百姓

百姓 七十九歳者

名主

名主

百姓 七十九歳

町人 政左衛門

町人 孫左衛門

百姓 八十一歳

百姓

町人

百姓

町人

百姓

百姓

日將

六十一歳

三十五歳

四十二歳

三十九歳

四十四歳

四十九歳

四十一歳

四十四歳

三十七歳

二十九歳

三十一歳

七十六歳

六十八歳

三十九歳

四十九歳

四十三歳

孝行者 白旗 海多那八所村

百姓

小八

三六歳

寛政元年 褒美

孝行者 酒井越前守領分 群馬郡下高濱村

百姓

法玄勝

四七歳

明和元年 褒美

孝行者 中根内膳知行所 山田郡境田村

百姓

常左衛門

三六歳

安永五年 褒美

孝行者 進兵太郎知行所 山田郡龍奔村

百姓

六右衛門

四十四歳

明和七年 褒美

孝行者 岩松玄庵知行所 新田郡下田宿村

百姓

仙助

三三歳

天明二年 褒美

孝行者清太郎

清太郎ハ甘樂郡馬山村乃百姓まの生れつゝ篤実よ
して農業と勵むるも七石のまゝと勉めらるる教の
二十日迄も母の病に父乃十石馬にまゝれ母を二十
あるの病に小とまゝと病をいれ人々後れぬ
けせハいふ由とて志はれまゝりて醫所より
まゝに佛神をいれ又妙薬ありとてまゝに治す
まゝに小疾めまゝに日暮りてまゝに看病せり
やうにまゝに農事めと怠りてまゝに隣り
の人々をまゝに看病の助けをまゝに

孝義録卷十一

六

とも妻とびとをせけりされど夫婦のりやとて
 母乃女抱くゆえに耕作しとて娘の性人
 と女めくことと母れとめくことと終るとはよく
 なる人にくり縁きりて出づるぬくこと持する
 田地をふ賃ふりて母の業を求め今いふ宅地
 乃ちのちもて娘難いもんやうけりけるよあはれ
 ちのち家より火ゆりて忽にその家もとらり
 されとて母のこれの道きく家財とともが焼失
 の世もいふことと母よりいふなりぬきと孝ん程を
 ともいふけりて村人おれとていふことと母と
 ともいふけりて村人おれとていふことと母と

とも妻とびとをせけりされど夫婦のりやとて
 母乃女抱くゆえに耕作しとて娘の性人
 と女めくことと母れとめくことと終るとはよく
 なる人にくり縁きりて出づるぬくこと持する
 田地をふ賃ふりて母の業を求め今いふ宅地
 乃ちのちもて娘難いもんやうけりけるよあはれ
 ちのち家より火ゆりて忽にその家もとらり
 されとて母のこれの道きく家財とともが焼失
 の世もいふことと母よりいふなりぬきと孝ん程を
 ともいふけりて村人おれとていふことと母と

孝義録卷十一

六

とも思ひし事とては此の由の家業も怠りては
 孝義も怠りては此の由の家業も怠りては
 りのちのれいごとくせんかきく家のうへに菰をのりあ
 こやう那うゆと志つてはてはるくはるくはる
 ちのちのれいごとくせんかきく家のうへに菰をのりあ
 うせりりそれと隣とてはるくはるくはる
 おやうそそつてはるくはるくはるくはる
 ちりりも怠りてはるくはるくはるくはる
 ちりりも怠りてはるくはるくはるくはる
 あつたり此の由の家業も怠りてはるくはる
 食物をを食てはるくはるくはるくはる
 更らまゝの繩とてはるくはるくはるくはる
 主價といふはるくはるくはるくはる
 小山とてはるくはるくはるくはる
 とはるくはるくはるくはるくはる
 にあつたり此の由の家業も怠りてはるくはる
 火箱とてはるくはるくはるくはる
 物終へぬはるくはるくはるくはる
 人のやうにてもはるくはるくはるくはる
 ちのちのれいごとくせんかきく家のうへに菰をのりあ

目とあふ人おらふらうけりさあ國乃控らけり
 いし次村おとの云葉りしむひ子貢物と八人小先
 立てけり又親族とさうり村人をも睦くけり
 むと支配勘定の格めては地を町にむき先はる
 吉川葉尾つを友和甲印公よはえあけらる
 寛政六年九月信公命よ及恨きことと給ひ毎に
 老と昔ふ技抄あをとり給あとり

孝行者ま川

ま川と館村の城下飯沼町よと先ら町人友と流り
 なるりい先は古志北高しとり半ととしてかき海
 貧くもあらさるしつ九子りり先夫小後とく老たる
 舅姑と初と娘二人まをけむま川二人の手にて
 とれ昔ひえ米たうとと親族をさうり人の組乃
 のものさうして幸に先人の後のまとむ久よ
 かこす先は先よとれと老後を便とばかりぬけ
 せと志らぬ人とむ久を及舅姑の心をひあらんも
 うととさうけり先は先と舅孤仁存馬の言はり
 けと小病と病とをさう控らにくれと看病よんを
 して先らぬもあらしつとと甲斐なうとあはれ
 齡七十四めてうせぬ姑と今七十八に回らぬに
 せられふ

火を福してはらふをせけと杉火老くそく子業由
 や先く経者ろと妻の日の人目と忠ひてうく人乃新
 のりふましくあゆはとせき後冬は火燵を設け
 けりるましくもまきくはせは子是ハ我服ははる家
 ちのとち指とりをあつる合せく海とせきと孝り
 組合乃るおよひはれきりしゆらうに火をすけりん
 とれ我子まありめくハ姑といたき道身ん事見
 まましくそくりて心まきくハはれハかふ折と
 何事とせ捨てとせきまは助も弟とせんたうり人
 せれとま川ハはらうに安うらぬさ向うそをなふまき

日々に徳巻作ら賑あれは是徳とぬハ取ら賃仕事
 おとふるをせりてとと姑の見て我もとくを業と
 助けとせと老乃よりと申賃後とぬ人とせ海りて
 何りさうとくともまきけりてととまはれはをりて
 姑とま川を念頃あるとあふ人とも小涙たうりて
 後りくとそかく孝養れとまをせれハおそる知
 と反日く西は若哉町よと先ら後身乃九老馬と之
 由は後けとと男の死やく後さるともおと出るす
 ちうく只姑のうくともらにのり家せれハ九老馬も海く
 感くは野棠をとりめ新まあそくははまきと人の

孝義録卷十一

十一

予、淡路の山姥で妙術ありし者ありしを、此を傳
 へて、人となりしと、後、門九右衛門、予の助けたりと
 述べて、能くも獲、其を、寛政元年の十月、其の
 弟とあり、人娘なりしを、非と、身が、祖母と、母と
 あり、其の、やうなる、と、あり、其の、ありと、い

孝行者平右衛門

平太師、敏林の城下、此、並、其、所、より、予、其、年、幼、う、子、也
 父、及、し、く、六、十、四、歳、に、あ、り、つ、つ、に、此、に、人、知、り、し、者、あり
 と、あり、た、れ、を、考、へ、其、代、高、い、平、右、衛、門、に、確、立、め、ら、る、と、い
 業、を、し、て、在、渡、り、も、ま、い、つ、つ、に、父、對、し、酒、飲、
 好、む、日、々、少、の、を、け、り、と、い、つ、つ、に、此、に、人、知、り、し、者、あり
 此、に、い、つ、つ、に、次、に、辨、め、し、る、限、り、と、い、つ、つ、に、此、に、人、知、り、し、者、あり
 と、い、つ、つ、に、人、も、あ、り、た、よ、大、事、立、つ、と、い、つ、つ、に、此、に、人、知、り、し、者、あり
 置、け、を、平、右、衛、門、に、その、扱、ひ、と、い、つ、つ、に、此、に、人、知、り、し、者、あり
 此、に、い、つ、つ、に、父、も、平、右、衛、門、に、い、つ、つ、に、此、に、人、知、り、し、者、あり
 け、の、道、の、又、辨、明、の、あ、り、に、持、つ、つ、に、此、に、人、知、り、し、者、あり
 行、な、し、と、辨、明、を、合、し、と、い、つ、つ、に、此、に、人、知、り、し、者、あり
 い、つ、つ、に、此、に、人、知、り、し、者、あり、と、い、つ、つ、に、此、に、人、知、り、し、者、あり
 此、に、い、つ、つ、に、父、も、平、右、衛、門、に、い、つ、つ、に、此、に、人、知、り、し、者、あり
 此、に、い、つ、つ、に、父、も、平、右、衛、門、に、い、つ、つ、に、此、に、人、知、り、し、者、あり
 此、に、い、つ、つ、に、父、も、平、右、衛、門、に、い、つ、つ、に、此、に、人、知、り、し、者、あり

又ゆれとくさるにとて免るた又父と今に農事
 勤ると好きてきまへ次耕しとてちのくまをとり
 子業に由るはれ農具おとすは畑よちりて父乃
 昔と昔は父の畑よりけりて疲れしとてよみぬと
 とて小洒着たのて束めとてあをたぬとておとす
 町よりしけと父家にをらされは又餅ねらとすりや
 あらんとうらめたく進れあつたは酒と飲家とを
 先くしてぬれ出くさゆつとてい者めくはひゆり
 ぬ又家業と勤くゆめくともあけへとけく後あつた
 父乃とておとく酒の料よあてぬとてとてあらぬと
 があちのてはおとさるおと出さ次又妻ともいさ
 とていされと父の衣乃洗濯と賃制して人よをた
 我乃十月のころとあつたまも早物のとゆとひと
 とれと領主より称羨して寛政元年十二月より
 兼成あつてとて

孝行者ちよ

ちよと名樂郡高根村の百姓依志忠萬う養女たのま
 りと反小野因樂田郡羽前村よとちよ荒賜とて
 とのく娘ちよりしと八歳乃とちよのひとてちよ
 十四歳めとちよけり住女ちよの田地一畝とてちよ



持子れとてぬ下田よとぬなるとをひりくを年おとれ
 貢も納りゆさうしにその以と斡たけ身をとらへく
 農事と人少し任を守持日と私兄ある清助ハされよ
 うせ申 楚れ々妻入るを先と申りて母家よ互
 してこれと又病わらぬとちふ乃手業もあらう
 ちふをちよ切と申ふら父と伯母とふ急須よは之
 と私暇よ及是感とぬふ業とりぬ世後日私助を
 先のぬ志うあふ父と寛政元年れあらう室兒を病よ
 ろけせと直敷者病よゆとそく曉てふふを
 らひ其村あら法身乃社り一七日ぬうてく立願せ
 してその志新くぬや日にう印く念とそぬふみえれと
 老乃身たれと全く念うさゆもとあらうさうきかく
 とぬをれ丁ぬよなりぬ事反ちよつふもして父に
 綿への衣をせまひしく思ひつとと何乃もたぬもら
 ぬとて申さうあとい物を伯母まで我病の姓を折ふ
 かしてつと檄織んとつむけしとむるう乃病よく
 と私よとあらぬくもあらうらうよ系と人つらハつら
 ともよと法りけすえしは直敷願とぬら種よ系も
 出来てまよつ結りきとさうしとてかたしと果
 して織ゆへととみえらうらうとれとちよはれふ

此の法をては教へてうけあさうたてて藍染
 あらゝせよと申すやんといふと父を費おかしん
 思ひしや黒染よせよといふと入らばはく
 後の事免あつてはたしんといふ我の業の料とり
 藍染よそあけけるをけり後と申すはあつても
 本俸と減一五もたぬと申すよきなりて是袋に
 ゆいしを償とゆく妻を求めつたては判とさか
 又新たつといふらまて何れと申すは我の
 方をなさらふ小切なりといふ其は乃十月父の
 俄小切うては法井と申すありまれの悲しむと
 夫にもあつてさうしき早九日の一は伯母乃
 けりおとちりあつては事おとちりおとちり
 歎きしと併指作つてはぬと申すおれを捧げ
 さんそ畔乃あつてと前集りおとちりよき
 寺小切なり父のうをいへ後と伯母といふ
 衣服のる小玉るやうといふと法を又地火
 の物入といふとあつてはたしんといふと
 淋くまはれぬと申すといふと此内は
 ぬれぬといふと申すといふと親族乃ぬれぬ
 系といふといふと申すといふとぬれぬ
 系といふといふと申すといふとぬれぬ

市立の所小をこれ為道ハ曉て又焚火してぬぐ
 相あけをゆふおゆぬ或附伯母乃つふなう今
 此をかく深切なる女抱小つひぬら事悦ましくは
 何とてと幸若此身とりあかく痛て苦甚とま
 さんなり親里に帰せしとすく免をたまたまとかくと
 乃ちふては家法んともあまうたれいつの所ら艱難
 とたせしとてかんとあひひらうぬとせんたれ
 んまひまう結ひうとせ慰めけらまあまきとあり
 してかく痛先やうおれ去らゆてこれ里小んはす
 きめらあうととく人く又稀をら進たれハ屋を
 傾全にすえまの襪あたらせくハ寛政二年二月の
 夏たのりき

新編 御成吉思汗

十一

下野國

○孝行者

河代宮支配所
芳賀郡西高橋村上組

○孝行者

同支配所
那須郡東岩掛村

奇特者

同支配所
那須郡板橋村

孝行者

同支配所
那須郡百村

○孝行者

同支配所
芳賀郡荒町

孝行者

同支配所
芳賀郡志基町

奇特者

同支配所
那須郡北赤井村

百姓

利右衛門

至五歲

明和五年
清養貞

百姓

利右衛門

至四歲

天明二年
清養貞

百姓

伊右衛門

至九歲

天明七年
清養貞

百姓

林右衛門

歲不知

天明八年
清養貞

百姓

佐右衛門

至十歲

寛政六年
清養貞

荒地紀邊芳賀郡全保次八百姓

徳右衛門

至十歲

寛政六年
清養貞

百姓

八右衛門

至五歲

寛政六年
清養貞

新編金卷十一

奇特者

日支配所
月所

八尋集野

勸解里

同日時
行慶

孝行者

日支配所
形次於左木村

百姓源左衛門

大川

寛政七年
行慶

奇特者

日支配所
都賀見氏支配所
都賀見引田村

百姓

余左衛門

天明六年

孝行者

日支配所
都賀見右左町

町人指物左

右左衛門

天明八年

孝行者

日支配所
都賀見板橋町

町人飯沼

信玄橋

寛政元年

孝行者

日支配所
都賀見板橋町

町人指物左

源六

寛政元年

孝行者

日支配所
河内郡岸田村

百姓

平田席

寛政元年

奇特者

日支配所
都賀見大町

町人長左

長左衛門

寛政元年

孝行者

松平肥後守内領所
佐治於板橋村

百姓

義助

天明六年

農業出籍

一橋教領分
芳賀於行下村

百姓信八法家

九人

天明五年

奇特者

日領
佐治於上言根沢村

名主

河津半之助

天明六年

奇特者

日領
佐治於上言根沢村

名主

宇津権右衛門

天明六年

孝行者

戸田周膳守領分
河内郡築津村

百姓

林田席

天明五年

農業出籍

日領
河内郡築津村

百姓

与平次

安永五年

孝行者

日領
河内郡東刑部村

百姓長左衛門

花助

天明元年

孝行者

日領
河内郡東刑部村

百姓

紋七

天明元年

孝行者

日頃 塩谷郡高徳村

百姓

若右馬

天明元年 褒賞

孝行者

日頃 河内郡藤心村

百姓

長茂

天明元年 褒賞

孝行者

日頃 塩谷郡民家村

百姓

若右馬

天明二年 褒賞

孝行者

日頃 芳賀郡小里村

左近

若右馬

天明三年 褒賞

孝行者

日頃 河内郡東河村

左近

若右馬

天明三年 褒賞

孝行者

日頃

無名

仲右

日時 褒賞

孝行者

日頃

乙右

日時 褒賞

孝行者

日頃 宇津郡下志保町

町人借屋位

若右馬

寛政元年 褒賞

孝行者

日頃

若次郎

日時 褒賞

忠義者

日頃 宇津宮城下下志保町

町人新屋下男

友七

寛政元年 褒賞

孝行者

日頃 多摩郡丹波守領分 那賀郡下稻葉村

百姓

若右馬

安永九年 褒賞

奇特者

日頃 坂本郡國台村

若主

高山林

天明七年 褒賞

奇特者

日頃 赤保山城守領分 那賀郡三膳村

百姓

吉柳源

天明四年 褒賞

奇特者

日頃 坂本郡大木次村

百姓

吉柳源

天明四年 褒賞

孝行者

日頃 坂本郡大木次村

百姓

林茂

天明六年 褒賞

孝行者

日頃

林茂

三十歳

日時 褒賞

孝義録卷二十一

十一

奇特者

日領 於次於酒三村元町

百姓

孫平

寬政元年

○孝行者

日領 鳥山城下金井町

百姓 室長女娘

孫

寬政元年

奇特者

日領 鳥山城下中町

百姓

板橋安左馬

日時

孝行者

日領 大國伴德守領分 於次於寺子組秋山次村

百姓

源次郎

明和五年

孝行者

日領 日所

百姓

源次郎妻

日時

孝行者

日領 於次於寺子組鼻井村

百姓 孫八下男

勘右馬

明和五年

忠義者

日領 於次於次賀川村

百姓

長八

明和五年

孝行者

日領 於次於井上村

百姓

孫

明和五年

孝行者

日領 於次於白町

百姓

河久津茂右馬

明和五年

孝行者

日領 於次於久世赤村

百姓

半七

明和五年

奇特者

日領 於次於次賀川村

百姓

若六

明和五年

忠義者

日領 於次於次賀川村

百姓 孫次郎下男

新助

明和五年

忠義者

日領 於次於次賀川村

百姓

四郎右衛門

明和五年

孝行者

日領 於次於寺子組法師加村

百姓 全五才

八之丞

明和五年

孝行者

日領 日所

百姓 門番妻

門兵衛

日時

孝行者

日領 日所

百姓 門番妻

山

日時

孝義錄卷十一

十一

○風俗宜者 日領 形次郡之又組弓落村

○風俗宜者 日領 日所領

○風俗宜者 日領 日所領

○風俗宜者 日領 日所領

○風俗宜者 日領 日所領

○風俗宜者 日領 日所領

○風俗宜者 日領 日所領

孝行者 日領 芳賀郡生田目村

忠孝者 日領 芳賀郡生田目村

孝行者 日領 芳賀郡粟生村

奇特者 日領 形次郡身居組三枚栲村

孝行者 日領 形次郡岩崎村

孝行者 日領 形次郡南金丸村

孝行者 日領 芳賀郡七井村

孝行者 日領 日所領

孝行者 日領 形次郡板倉組弓落村

百姓

百姓

百姓

百姓

百姓

百姓

百姓

百姓

百姓

百姓

百姓

百姓

百姓

百姓

百姓

源七 明和五年 奉

八右馬 日時 奉

甚云清 日時 奉

程八 日時 奉

長次郎 日時 奉

勘右馬 日時 奉

八三郎 日時 奉

友藏 明和五年 奉

傳左衛門 明和五年 奉

兵藏 明和五年 奉

市右衛門 明和五年 奉

孫左衛門 明和五年 奉

太郎 明和五年 奉

五云清 明和五年 奉

長八 日時 奉

仲右馬 明和六年 奉

孝行者

日領 形次助越後記

百姓

三右馬

明和六年 褒賞

忠孝者

日領 形次助次左木村

百姓

勘六

明和六年 褒賞

孝行者

日領 形次助寄居組砂子村

百姓

大友馬

明和六年 褒賞

孝行者

日領 形次助言津組入山村

百姓

仁右馬

明和六年 褒賞

孝行者

日領 形次助田町

百姓

津

明和六年 褒賞

孝行者

日領 形次助寄居組境明林村

百姓

傳右馬

明和六年 褒賞

貞節者

日領 形次助河東村

百姓

下

明和六年 褒賞

孝行者

日領 形次助河東村

百姓

世

明和六年 褒賞

孝行者

日領 形次助若日町

百姓

平助

明和六年 褒賞

孝行者

日領 芳賀助大羽村

百姓

次右馬

明和六年 褒賞

孝行者

日領 形次助櫻田村

百姓

津

明和七年 褒賞

孝行者

日領 形次助植世糸村

百姓

光

明和七年 褒賞

孝行者

日領 形次助南金丸村

百姓

源右馬

明和七年 褒賞

孝行者

日領 日所

百姓

志

日時 褒賞

奇特者

日領 形次助寺子組金田村

百姓

定七

明和七年 褒賞

貞節者

日領 形次助櫻田村

百姓

人

明和七年 褒賞

孝義錄卷十一

三十二

孝行者

日領 形次郡川上組南方村

百姓

辰右衛門

明和八年 喪次

孝行者

日領 形次郡大寺村

百姓

七次

明和八年 喪次

孝行者

日領 形次郡寺岩村

百姓

十五歲

明和八年 喪次

孝行者

日領 形次郡向町

町人

十五歲

明和八年 喪次

孝行者

日領 形次郡向町

町人

五十一歲

明和八年 喪次

孝行者

日領 形次郡羽田村

百姓

三十八歲

安永元年 喪次

孝行者

日領 芳賀郡稻毛田村

百姓

五十七歲

安永元年 喪次

孝行者

日領 形次郡湯原村

百姓

三十一歲

安永二年 喪次

貞節者

日領 形次郡久保村

百姓

三十四歲

安永二年 喪次

奇特者

日領 形次郡埴畑村

百姓

三十一歲

安永二年 喪次

孝行者

日領 形次郡大塩村

百姓

二十一歲

安永二年 喪次

孝行者

日領 日所

百姓

二十一歲

日時 喪次

忠義者

日領 形次郡次門村

百姓

五十一歲

安永三年 喪次

忠義者

日領 日所

百姓

四十五歲

日時 喪次

奇特者

日領 形次郡稻沢村

百姓

五十一歲

安永三年 喪次

孝行者

日領 形次郡日町

町人

五十五歲

安永四年 喪次

孝行錄卷十一

貞節者

日領 形次初門上村

百姓平吉妻

乙ノ

安永四年 褒賞

貞節者

日領 形次初門上村

百姓吉吉妻

乙ノ

安永四年 褒賞

貞節者

日領 形次初賀門村

百姓全吉妻

乙ノ

安永四年 褒賞

孝行者

日領 芳賀初指名田村

百姓

乙ノ

安永五年 褒賞

孝行者

日領 日所

惣吉妻

乙ノ

日時 褒賞

貞節者

日領 形次初落合村

百姓新吉妻

乙ノ

安永五年 褒賞

兄弟睦者

日領 芳賀初大田村

百姓

乙ノ

安永七年 褒賞

奇特者

日領 芳賀初清水村

百姓

乙ノ

安永七年 褒賞

孝行者

日領 芳賀初生田村

百姓

乙ノ

安永八年 褒賞

孝行者

日領 芳賀初下浦沢村

百姓長吉妻

乙ノ

安永八年 褒賞

孝行者

日領 形次初指名村

百姓長吉妻

乙ノ

天明元年 褒賞

忠義者

日領 形次初吉久組中尾村

百姓長吉妻

乙ノ

天明元年 褒賞

貞節者

日領 形次初田町

百姓勝吉妻

乙ノ

天明元年 褒賞

貞節者

日領 形次初出多賀村

百姓源吉妻

乙ノ

天明元年 褒賞

孝行者

日領 形次初奥沢村

百姓

乙ノ

天明元年 褒賞

孝行者

日領 日所

依原妻

乙ノ

日時 褒賞

孝義錄卷十一

二十三

孝行者

日領 那波那守居組成田村

百姓

文右衛門

天明元年 褒美

忠義者

日領 那波那守居組成田村

百姓改次中男

幼六

天明三年 褒美

忠義者

日領 日所

幼六妻

之

日時 褒美

忠義者

日領 日所

日男

左七

日時 褒美

奇特者

日領 那波那守居組成田村

百姓源齋母

七

天明四年 褒美

貞節者

日領 那波那守居組成田村

百姓或方為妻

七

天明六年 褒美

奇特者

日領 那波那守居組成田村

組次

八

天明六年 褒美

奇特者

日領 那波那守居組成田村

百姓

又左衛門

天明六年 褒美

孝行者

日領 那波那守居組成田村

百姓

源益

天明六年 褒美

孝行者

日領 芳賀那生田目村

百姓

沐助

天明六年 褒美

孝行者

日領 芳賀那生田目村

百姓

龜八

天明六年 褒美

孝行者

日領 日所

龜八妻

甲

日時 褒美

孝行者

日領 那波那守居組成田村

百姓

田助

天明六年 褒美

孝行者

日領 家來

龜八妻

乙

天明七年 褒美

孝行者

日領 那波那守居組成田村

百姓

源重

天明七年 褒美

家内睦者

日領 那波那守居組成田村

百姓

太左衛門

天明七年 褒美

孝義録卷十一

家内睦者 日所

孝行者 日所

孝行者 日所

孝行者 日所

奇特者 日所

孝行者 日所

孝行者 日所

貞節者 日所

孝行者 日所

○農業出類 日所

奇特者 日所

奇特者 日所

孝行者 日所

孝行者 日所

孝行者 日所

○孝行者 日所

二十五

太七 日時

孝行者 天明七年

孝行者 天明七年

孝行者 天明八年

奇特者 天明八年

孝行者 寬政元年

孝行者 寬政元年

貞節者 寬政元年

孝行者 安永八年

孝行者 天明二年

奇特者 天明五年

奇特者 日時

孝行者 天明六年

孝行者 日時

孝行者 天明六年

孝行者 寬政元年

二十五

太七 日時

孝行者 天明七年

孝行者 天明七年

孝行者 天明八年

奇特者 天明八年

孝行者 寬政元年

孝行者 寬政元年

貞節者 寬政元年

孝行者 安永八年

孝行者 天明二年

奇特者 天明五年

奇特者 日時

孝行者 天明六年

孝行者 日時

孝行者 天明六年

孝行者 寬政元年

農業者

日領 芳賀郡祖母井村

百姓

年次

寛政二年

貞節者

日領 船次郡上井井村

百姓 船次郡上井井村

年次

寛政二年

孝行者

日領 船次郡松原村

百姓

年次

寛政二年

孝行者

日領 大田郡下寺町

町人 大田郡下寺町

年次

寛政二年

孝行者

戸田大炊次領分 郡次郡松原村

百姓

年次

寛政二年

奇特者

日領 船次郡新井村

居士

年次

天明七年

奇特者

日領 船次郡新井村

居士

年次

天明七年

風俗直者

日領 船次郡新井村

居士

年次

天明七年

孝行者

日領 船次郡松原村

百姓 船次郡松原村

年次

天明七年

孝行者

日領 船次郡松原村

百姓 船次郡松原村

年次

天明七年

孝行者

日領 船次郡松原村

百姓 船次郡松原村

年次

天明七年

孝行者

日領 船次郡松原村

百姓 船次郡松原村

年次

天明七年

奇特者

日領 船次郡松原村

百姓

年次

天明七年

孝行者

日領 船次郡松原村

百姓 船次郡松原村

年次

天明七年

孝行者

日領 船次郡松原村

百姓 船次郡松原村

年次

天明七年

貞節者

日領 船次郡松原村

百姓 船次郡松原村

年次

天明七年

孝行者

日領 越前郡朽木下町

百姓 幸左兵衛

瀬玄清

三十七歳 寛政二年

孝行者

日領 越前郡朽木横町

醫者 松平宗保

徳弥

十四歳 寛政二年

孝行者

日領 越前郡子渡村

百姓 金松妻

のよ

三歳 寛政二年

孝行者

日領 足利郡五箇新田下町

百姓

定七

三十七歳 寛政二年

孝行者

日領 足利郡五箇新田下町

百姓 孫七

茂八

三歳 寛政二年

孝行者

日領 足利郡五箇新田下町

百姓 田百姓

孫七

三歳 寛政二年

奇特者

日領 足利郡五箇新田下町

百姓

共七

三歳 寛政二年

奇特者

日領 足利郡五箇新田下町

百姓

友左

三十八歳 寛政二年

奇特者

日領 足利郡五箇新田下町

百姓

久左

五十二歳 寛政二年

奇特者

日領 足利郡五箇新田下町

百姓 久左

傳内

二十七歳 寛政二年

奇特者

日領 足利郡五箇新田下町

百姓 善左

助右

三十二歳 寛政二年

奇特者

日領 越前郡白葉田村

百姓

伊三

六十七歳 寛政二年

奇特者

日領 越前郡朽木上町

百姓 田百姓

庄助

四十二歳 寛政二年

奇特者

日領 越前郡朽木下町

百姓 年寄

市兵

甲歳 寛政二年

奇特者

日領 越前郡朽木下町

百姓 年寄

弥次

三十八歳 寛政二年

奇特者

日領 越前郡朽木下町

百姓 年寄

弥次

四十一歳 寛政二年

奇特者

水戶教領分
形次那武那村

庄屋

傳左馬

寶曆九年
癸亥

奇特者

日所領

庄屋

組次共

日時
癸亥

風俗宜者

日所領
日所太布坪

先子庄屋

百姓
五十三人

日時
癸亥

奇特者

日所領
形次那馬以村

百姓

儀重

寶曆九年
癸亥

風俗宜者

日所領

百姓

惣百姓

日時
癸亥

奇特者

日所領
形次那馬以村

百姓

与右馬

寶曆九年
癸亥

奇特者

日所領
形次那和見村

百姓

佐右馬

寶曆十年
癸亥

奇特者

日所領
形次那馬以村

百姓

若右馬

寶曆十年
癸亥

○奇特者

日所領
形次那馬以村

百姓

与右馬

寶曆十年
癸亥

奇特者

日所領
形次那馬以村

百姓

市右馬

寶曆十年
癸亥

○奇特者

日所領
形次那久那池村

百姓

沐右馬

明和四年
癸亥

奇特者

日所領
形次那太内村

百姓

平六

安永五年
癸亥

農業出籍

日所領
形次那太内村

百姓

平五郎

安永五年
癸亥

農業出籍

日所領
形次那右山田上村

百姓

平七

安永五年
癸亥

孝行者

日所領
形次那小砂村

百姓

左重

安永五年
癸亥

孝行者

日所領
形次那小砂村

百姓

若右

安永五年
癸亥

貞節者

日領 那波那和見村

百姓在七後家

寺

安永五年 褒貞

奇特者

日領 那波那武井村

孝壽

傳左馬

天明元年 褒貞

孝行者

日領 那波那三河又新田

百姓

金三浦

天明元年 褒貞

風俗宜者

日領 那波那久那津村川邊坪

百姓

九百

天明元年 褒貞

農業出精

日領 那波那久那津村

百姓

又右馬

天明元年 褒貞

農業出精

日領 那波那富山村

百姓

元右馬

天明元年 褒貞

農業出精

日領 那波那富山村

百姓

甚右馬

天明元年 褒貞

○孝行者

日領 那波那馬院村

百姓

清六

天明二年 褒貞

農業出精

日領 那波那太内村

百姓在右馬院家下女

五右馬

天明二年 褒貞

忠義者

井伊掃部殿領分 安蘇那大内町

百姓在右馬院家下女

三浦

享保三年 褒貞

孝行者

日領 安蘇那小倉町

百姓

勝右馬

寶曆四年 褒貞

孝行者

日領 安蘇那大内町

百姓在右馬院家下女

和右馬

明和八年 褒貞

孝行者

日領 那波那

百姓新七妻

志川

同時 褒貞

孝行者

日領 安蘇那小倉町

百姓

六十

安永三年 褒貞

孝行者

日領 安蘇那天明町

百姓

宇右馬

天明八年 褒貞

孝行者

日領 那波那

百姓

平四

同時 褒貞

孝行者

日傾 安蘇郡天明町

孝行者

日傾 日所

孝行者

日傾 松平大和守領分 松平郡那志村

孝行者

日傾 大井大炊頭領分 寒川郡寒川村

孝行者

日傾 松平郡上三河村

孝行者

日傾 日所

孝行者

日傾 松平郡友部村

孝行者

日傾 松平郡下志村

孝行者

日傾 松平久五郎領分 松平郡葛生町

○孝行者

日傾 日所

孝行者

日傾 日所

孝行者

日傾 日所

忠孝者

日傾 松平郡富田村

孝行者

日傾 安蘇郡並木村

孝行者

日傾 日所

孝行者

日傾 日所

百姓 松平郡平次郎

忠七

日傾 寬政三年

与七

日傾 日所

伊助

日傾 天和七年

与七

日傾 天和四年

清右衛門

日傾 天明八年

与七

日傾 日所

与七

日傾 寬政元年

与七

日傾 寬政元年

新之丞

日傾 寬政三年

与七

日傾 日所

八汰

日傾 日所

友八

日傾 日所

鉄次郎

日傾 天和八年

徳虎造

日傾 天明六年

与七

日傾 日所

与七

日傾 日所

農業出精

久世隈波守領分
郡賀郡北去井村

百姓

元右馬

三十四歳

寶曆七年
癸亥

農業出精

日領
山内郡西藤原村

百姓

平右馬

三十四歳

寶曆八年
癸亥

孝行者

日領
郡賀郡藤原村

百姓

幸右

三十七歳

寛政元年
癸亥

孝行者

日領
郡賀郡志高村

百姓

武右馬

三十七歳

寛政三年
癸亥

○ 奇特者

水北日向守領分
芳賀郡東水沼村

名主

田八右馬

四十一歳

天明四年
癸亥

奇特者

細門長門守領分
芳賀郡小原村

名主

新右馬

四十四歳

明和五年
癸亥

奇特者

日領
芳賀郡三坂村

名主

徳右馬

三十八歳

明和五年
癸亥

孝行者

日領
芳賀郡坂根村

百姓

孫右馬

九歳

明和八年
癸亥

奇特者

日領
芳賀郡坊井村

百姓

利助

五十一歳

安永三年
癸亥

孝行者

日領
芳賀郡高岡村

百姓
百姓幼意馬牌

徳次郎

十一歳

安永九年
癸亥

孝行者

日領
日領

くろ

十四歳

日時
癸亥

農業出精

日領
芳賀郡門又村

百姓

次右馬

三十五歳

寛政二年
癸亥

兄弟睦者

米倉長門守領分
安蘇郡上水沼村

百姓

金右馬

五十一歳

寛政二年
癸亥

貞節者

長連門左衛門督領分
塩谷郡長連門河原町

百姓
百姓次右馬

加光

三十四歳

寛保三年
癸亥

孝行者

日領
塩谷郡長連門東町

町人
町人長平牌

幼助

三十六歳

明和七年
癸亥

孝行者

日領
塩谷郡長連門上町

町人

次右馬

甲三歳

寛政四年
癸亥

孝行錄

孝行者 日頃

貞節者 板倉主抗助知行所 河内郡上三門村

孝行者 富士三原中野知行所 初賀敷下南广村

孝行者 古井左門知行所 足利郡松尾村

孝行者 横山織之助知行所 初賀敷新岩村

農業出稼 同知行所 初賀敷金井村

孝行者 同知行所 初賀敷新岩村

孝行者 同知行所 初賀敷富張村

孝行者 本多孝力知行所 初賀敷大野村

奇特者 福原内通知行所 初賀敷沢村

奇特者 同知行所 初賀敷沢村

奇特者 同知行所 初賀敷沢村

農業出稼 同知行所 初賀敷沢村

奇特者 同知行所 初賀敷得田村

奇特者 同知行所 初賀敷佐久山岩

孝行者 同知行所 初賀敷佐久山岩

次為妻

百姓是右為妻

百姓万次存母

百姓

百姓

百姓

百姓

百姓

年寄

百姓

百姓

百姓

百姓

名主

年寄

町人初次登

志海 日時 褒賞

孝子 三十三歳 天明七年 褒賞

与 三十三歳 天明八年 褒賞

清助 四十九歳 天明七年 褒賞

住次 歳不知 年不知 褒賞

次右衛門 歳不知 寛保三年 褒賞

次右衛門 三十一歳 寛政元年 褒賞

住七 三十五歳 寛政二年 褒賞

要次 三十九歳 寛政二年 褒賞

次右衛門 四十二歳 天明三年 褒賞

由右衛門 六十四歳 天明三年 褒賞

万右衛門 四十四歳 天明三年 褒賞

七右衛門 五十三歳 天明五年 褒賞

利右衛門 四十一歳 天明七年 褒賞

源次郎 三十三歳 天明八年 褒賞

若右衛門 四十八歳 天明八年 褒賞

奇特者

大波佐流守知行所
初賀郡中居村

大庄屋

坂塚六右衛門

天明三年
癸亥

孝行者

同知行所
初賀郡茂呂岳

百姓政七妻

津屋

天明七年
癸亥

貞節者

同知行所
初賀郡茂呂岳

百姓作平後家

上先

天明七年
癸亥

孝行者

大田系頼母知行所
初賀郡森田町

百姓信四郎伴

伊助

明和五年
癸亥

孝行者

同知行所
初賀郡森田町

百姓源次郎娘

少人

天明四年
癸亥

奇特者

那次五知行所
初賀郡福系村

百姓

文平

明和七年
癸亥

奇特者

同知行所
初賀郡福系村

百姓

伊右衛門

天明四年
癸亥

孝行者

横濱後河守知行所
足利郡下美村

百姓平吉娘

小

天明二年
癸亥

孝行者

遠山系有知行所
初賀郡福系郷

組改

庄右衛門

天明三年
癸亥

孝行者

同知行所
日所

本庄馬舟組改見書

庄三郎

寛政五年
癸亥

孝行錄卷十一

孝行者利八

利八は芳賀郡西高橋村上組の百姓あり四十より
 三兒父は全有馬の馬十石は有りてあるは
 之後父母とも長兄病にゆして田をも畑をも賣
 してその地を以て地まゝと考ひて人地をりて
 之を以て利八をせんといふ事なむに
 之乃用とて人ぬきに転て小畑して父母を
 養ふと又きりわたりとて看病をせしむ
 寛文二年の丁卯父を病より治すに
 母は走乃りて父を病より治すに
 母は走乃りて父を病より治すに

利八

利八

け村の内なる甚き病とつらも此より利ハハ妹と嫁らうせ
 うこれとまうて妻とて嫁のつらうすあまひ父乃全
 右邊つゆとちかくれてをわゆるぬ歎とのう人よりと
 りり多病より人あまをわくね氣乃やうにまうけら
 じ母母あまれうりあ我家よび人より一に二人
 中も病人もく外に女抱をく足りのなけきハ利ハ
 かくあハ奉とせんあうさくあ小作とく人の
 田代を作り又日くわうに雇されそのあまをわ
 食する一飯のうらとむわらうとせ二人よを先これ
 弟とを暑のいさむさく衣業を励むあはつれを

由人とも二人よは時く衣服をせえとてあま
 夜乃ゆらまのゆらあねと給ふ夕あうり落葉は
 ぬさく焚火をまうけあのねと蚊帳をふまうられ
 又も茶とわらて蚊やりさうさうと眠らう女抱
 けり病は母はあま七十代老とわらてらあま
 まやまわらぬと神佛もまうてはわらふといひれ
 ハ孝道のゆらてあま脊おひあまらうあままたよ
 事ふ一村乃内の人とも其孝行と感してあま
 ちうとわらうまう妻乃媒ともあまけきとわくま
 けさう人よあまわらうあまらうあまらうあまらう



いづくか...の法...母乃...もを...に...
 中...うけ...次...の...
 人...を戒...利八...
 と...も...村...利左馬...利八...
 兄...種...村...
 身...銀...
 母...利八...
 ...の助け...
 ...
 ...
 ...
 ...

どう...二人の...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

孝行者利左馬

利左馬...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

在下にまことひいてりしをこれにせりし里にまこと親族乃
 名左馬とてふるに父をうつてを日東松とてふる
 看病しこれと甲斐たつては由りうせよくは
 志願といふんこころをみえりかきて十六年より
 一附祖母の病はゆへぬとて父の屋敷に侍りて
 ちから使ひをまじくはまをたはふれ老の身はまじ
 くこわらんを思ひやりくまはまを我肌とて
 けりし父との女抱ゆるかこちうりなまことおろし
 直心れもむしうくありぬまは二人の母は孝け
 せしに孝は病もく月毎一二夜をうりハ咽け

まれぬるばおやまりのくまはま自由ありて
 と利左馬の病もまじり深く病をて母へとらり
 志らまはまは里にまじいなるま右の地帯へ一七日の
 うちうましくありてまじりてぬら煙草を
 まじたらまじいこころのけり志願一まじり
 もたかく意うてまはまをまじりてまじりてまじり
 かくまはまをまじりてまじりてまじりてまじり
 まじりてまじりてまじりてまじりてまじりて
 まじりて利左馬の日夜こころのけり母の我名を
 まじりてまじりてまじりてまじりてまじりて

服業ハ心といハる衣をさるに代人あをち寒暑と云も
 我身をさるに代人あをち寒暑と云も
 ぬ又金カシて母の金も代付へはらふとゆふこと
 不見るさぬまゆくちのいふ事と云ふこと
 耕作成々未あつふと云ふ出る目と志をくつりあ
 女不事と云ひ朝夕共食も母のぬり給ふのと云ふ
 八年をわうと云ふ妻を逐へらふ母れんまかると云ふ
 七良ソウのささよ縁きりて出へる外よ二人乃
 兄中もたかくかきと云ふ農事にて志をへくこと
 人くはの妻とひ入てんやと云ひと云ふこと
 孝

善れ坊けよまると云ふこと
 夫乃と云ふ事親族よりり先一村隣里と云ふ
 けり種目は一御利左衛門うけひよ智ひて風俗好よ
 ら給く四甲と云ふ事と云ふ地のは代皮は六甲
 左衛門と云ふ公には支えにけり銀をさる此廢
 貴と給ふことハ毛留二年六月の事なりと云ふ

孝行者佐左衛門

佐左衛門ハ芳賀郡荒町の百姓として初名と云ふ者也
 少くして石女まう此田をりらるる見天明四年
 母病と云ふやと云ふ父佐左衛門と云ふことなりと云ふ

孝者うまうこいさげさるればこそよくい病をたすけ
 業ひかり見しよは田舎の事たすむる醫者こそよ
 ちうの家貧くもふらまはれ療治をさうかこれか
 一日もたやく病のいえん事を新やしてまう位あより
 八町あよりと隔つころ氏神大爺控現こ曰く町の
 うらにあつむら公三森稻花は百日乃る病者の頼り
 くかまは付くく晝夜とさう海うてさうこれと
 その後らう次紀居もありかこけは二便ともり抱
 こさうく杖しころ八日さううたすまこと志うた又父佐
 右馬もまこ麻病とうれ入る二親ともいも志し
 けさち農事もちうしわくく日傭をも屋とそれたま
 く衣食に苦くはさく病のいとはる家後馬乃番か
 けさのともそれ目といふと首ねもに安う次父乃
 病も及砂糖水飴の敷うくさうく又父母はかくし
 色う夜とらうとさうりうく是を求りくさうりけり
 氣のいすわつさくおやりは家のうららはる脊おひ
 ておよあれを母をたひ愛ひまをせちうくして心と慰
 光りう父は病まうゆけた金毘羅の神は新やこれ
 を私甲斐まうくお父らうをぬくはまひしこ中おま
 と送葬の設もあら次せんこさうて組合たうけ

孝義金卷十一

三十九

久次とて又るものより金かりてふさむりにいせを
 申り母の病を大かすにいえしとて阿む事ふかよ
 己一人乃のせれよとあきぬこいとも借くる金かへも
 毎にこすうふけはよとあきぬよとてさゆれよと
 てかかすめりつて人こつと畑を二段つてはくしよ
 久次もそすきをしつふあつたひふあしとれきまつも
 のともくさぬはうりたるおひさをと借ひ入せし
 ころん寛政六ほふ月廿代官行頓之右進、こいえあけ
 て御褒美乃銀と下賜りたり

孝行者

如孫の鳥山乃城下金井町日すり新定右馬、娘をり
 兄二人ありしつ長はとと而さく若死つ後、うりお戸ふ
 新て奉公しつこの孫助とて又る人月北行ひあし
 父う敵を立さうておに、か孫ハ又出と村よ嫁り
 せしに、つちあらあよや安永三年北下り孫をり
 出さきけれ、せんもあつたその孫隣町なる安永年
 うりふ乳母なごしつ声に、うりおのとも助へとれ
 て父母よりとりぬ父と綿お事と世後、りとしてあつ
 ても、かういまは老むとて、孫の乃葉とたうり、あけ
 是るに、後をとりて、眠をさし、家は、ゆり、く父母を

孝母を以て耕作より勤たる事に見る事あり
 母を以てして心成を以てし母を以てして
 母の人の衣を洗濯し世渡り此助もこたへぬ
 又りこりの酒成ぬも此後十四年より即ち日に
 怠ら次をけりよ天明四年此妻乃以父の酒
 乃料ありて深く飲もて夜はさす小ねもあは
 りのききこもわんこもわんこもわんこもわんこも
 つけとゆく夜葉をこもいかに此態もとりあは
 集りて小あけすもその中日後百文ありて
 此のあは悦びたるは酒をよおしてをりて
 酒をわらわをわらわと人々も見えぬ機は孝感乃
 してこと不ちんと稱しあはりて母曰れ七年は
 ろり父恩をさるや好光る酒を減くぬは
 こそすくようあはくおまをりてあはくも
 なる事も叶はる今もやうも好もあはく
 能くさる母は七歳よりさるり中病の病り
 母して此居る人自在おら給とある秋のころは
 作りたる畑見まはしといひて是を農事れり
 あらさるよこみ脊負ゆはく是を又も
 附と焼乃あはりてはくもふりてはく

母の死日と蒲團日のききぬ日ゆゑに侍ひ新ぬく
 父母より小老より上乃、病より立衣たつて見若くから
 ぬをうに子守りのしと扱ひをふをりぬる人毎
 左馬も涙く感くあ十二まをぬくさぬより貢の金よ
 白乃比ちよとゆゝ一々進ハを附礼日とて孝節いふと
 家世周事とつけ入るりくこととされもや見のよと命
 より折又ゆきとハ金さことをゆりて天明八年
 の冬外よりあよ思ひきて貢乃金と納り又あたふ
 ら孝借故きとともゆりて借ひたり次の見もとハ
 男代初いとあつためく物より性集して妹とたふ
 女抱せしと是ふといふ孫孝んをぬりぬるのうりあつ
 くとくはまのれは孫より領主に傳へ出さしハ寛
 政元年此正月の孫よ米の寝美をゆゑ人安左衛門も
 こと志奇物たふれとてあ金成とせし賞さしとて

風俗宜者源七

風俗宜者八右邊

風俗宜者基三橋

風俗宜者於八

風俗宜者長次郎

風俗宜者幼右衛門

風俗宜者八之節

那須郡高久組下落村にかやうのりまのちる村り
 一あたろ百姓七人のと住居をまろを八添七八在也
 甚き湯柱ハ長次舟越を為ハ八之節とて一村乃うら一
 家のをうに赤やとてたてとて小農事とて励と年
 一とれ貢とて同くおき免とをまらうぬ家ハ八餘れら
 人より助けやりてたらさるるを外よとてさるる
 又作り給そる物と市にゆくうのさとすうらと
 こもくにといふてうらぬ價のまらさかたともいふ
 決とてく分ち又垂袋或ハ米穀の是さるるものく
 事に助を命をけりてさるるま久く辛備をうとす
 人かくたく家くして小睦ハあかしく耕以業乃と
 廟とていふとてさるるの負くともあつさるるま
 けり風俗乃と後とてさるる村おさるるれより終至
 了り得へか々終ハ明和乙辰十月七日のまはる褒詞
 とて下くをさる

音持著せん

那須郡高久組下ろ大落村よとてさるる百姓源五郎
 こつふものめせんち帯にあつてをれ村く乃
 負人より全儀をうとていふて人より助けとて

あまうたひるくおやぐれ後と種ぬる種り
 次第に生数も積り由交と小凶年亦積るこく
 明とそれ重成久きふも多うりこくつて反
 それくの子孫よあうあまり不和乃基少を
 たうる種くそくあまら全れ救ふとつれつけ金
 くも久懐こつふとこく多焼あまら又天明
 二年ハく此其のり種乃れ小あく明とくく
 利是をよつて全成してや此種難と救ひ又自
 ちうあまきこめく娘と我家よ喜ひをれ成長成
 まらく人に嫁せりあまら馬とくをれくりこ
 ち教人まつるまを教り事多うのとこ所種ハ傾年あ
 其志乃れ生先やうたう成称英くあ何れ四年
 の三月小全とせうせうれうとに老を去りた
 りふとく種乃れ夜忘ら事ともゆふせくあまら

農業出精と熱左馬

ち魚左馬ハ形次那崎山村の名主を名をあつた也
 年ハ後農事と勵して曉も及痛屋のうらうり
 股引とせれあく熱とせくくと田面よゆく事数
 十度よ及ひあまらとこく一日とくさうこ今うら
 ちやあまら種りて強后く種よ管も豊りり何

ありし事ありし孫とてあはれに老成も後
 にもあつとふと孫も折るとふすけりよ農
 業に生きたらふのけせりいんたりの農
 業よん成き一日も無業よと教へよあつ
 てもかゝりて子孫を教へても一日に風雨とい
 ぢりていも我子をさしりてはふち節よあつ
 まく付むゆと力乃たりの耕作を勵むと終に田地
 乃きと二十石一斗のまるとおくと節よと七八
 人よりありりあつたふよと憐れと如くまをい
 へり候へりあつたふよとけりなるけりまをい
 ありへり事とまをい又村の田を農事にまを
 荒地をとも成えりりあつたふよとあつたふよ
 せとてあつたふよのけりあつたふよとあつたふよ
 耕しとてあつたふよのけりあつたふよとあつたふよ
 人々の外に無入り意とる風俗もまをいあつたふよ
 改りぬ事いあつたふよのけりあつたふよとあつたふよ
 あつたふよのけりあつたふよのけりあつたふよとあつたふよ
 捨をさつたふよのけりあつたふよのけりあつたふよとあつたふよ
 うらに教へる事あつたふよのけりあつたふよとあつたふよ
 とも難貴とあつたふよのけりあつたふよのけりあつたふよとあつたふよ

ありし事ありし孫とてあはれに老成も後
 にもあつとふと孫も折るとふすけりよ農
 業に生きたらふのけせりいんたりの農
 業よん成き一日も無業よと教へよあつ
 てもかゝりて子孫を教へても一日に風雨とい
 ぢりていも我子をさしりてはふち節よあつ
 まく付むゆと力乃たりの耕作を勵むと終に田地
 乃きと二十石一斗のまるとおくと節よと七八
 人よりありりあつたふよと憐れと如くまをい
 へり候へりあつたふよとけりなるけりまをい
 ありへり事とまをい又村の田を農事にまを
 荒地をとも成えりりあつたふよとあつたふよ
 せとてあつたふよのけりあつたふよとあつたふよ
 耕しとてあつたふよのけりあつたふよとあつたふよ
 人々の外に無入り意とる風俗もまをいあつたふよ
 改りぬ事いあつたふよのけりあつたふよとあつたふよ
 あつたふよのけりあつたふよのけりあつたふよとあつたふよ
 捨をさつたふよのけりあつたふよのけりあつたふよとあつたふよ
 うらに教へる事あつたふよのけりあつたふよとあつたふよ
 とも難貴とあつたふよのけりあつたふよのけりあつたふよとあつたふよ

屋うに助者を控へ天保二年の八月は領主より
金銀よみ入る祿英せり

孝行考要助

芳賀郡根井村乃無助と云ふ石一斗のまうり
りある百姓あり生れつと云ふ實少ある農業に
怠ら次幸り我身此事より一錢と云ふ費と
次して父母此好んる酒肴はと云ふ小来りくは
り志う好日六七日と云ふの女の頭より
と云ふ多く泣きと云ふ人勤うと云ふ好く云明七
此うの中風の屋うよりと云ふやと云ふと云ふ

自在なる次父と云ふおきくは八年此あると云ふ老れ
目と云ふと枕よりつと云ふおと云ふけらと云ふの食
下りのと云ふは乃事日あると云ふ念と云ふと云ふ抱く又
村乃課役まくと云ふおと云ふして勤めと云ふ耕以業
を云ふのぬくお人の組乃のうと云ふ助けと云ふと云ふ
うらけと云ふと云ふ孫増と云ふ食くと云ふ今日のを云ふ
まに云ふと云ふ馬に物負せと云ふ侍と云ふと云ふ世代
と云ふありと云ふと云ふ七法乃と云ふおと云ふ食物
して父母よと云ふ道の食まくと云ふ物と云ふ風雨と云ふ
と云ふと云ふと云ふと云ふ日と云ふと云ふと云ふ父母乃

用事をさぐるれば食物と畑として馬の料の
 事にかゝらばそれらとつを夜は入るまで寝る
 とくも父母の側ふ所をよむ必おそくもその腰
 とめくをたたりぬおひりてりあやまちて夜お
 とつしぬまはとみよらひそくもくはる冬は
 只破れぬ綿衣のそまを父母とは燻りうら
 ちらにうらちりておちけまきく焚火をほけけ
 きらるもまうのこ又馬おれて薪とらし出さふと
 父乃我髪とけつりくよこひひ終はまらうとつ
 ちりて言家乃とくまうそれう人に養ふこと
 へりてお出せぬを母よこひてを波ようこつひを
 是れいさかひるひ氣をさうくまらうておぬ乃ま
 りお熱をける又農業或は林賃稼はおさふ終て
 とぬら飯またくまるとける會おまきくと父母二人
 しりていさかひる要助ゆて夕飯乃しりまきく食
 事せとぬるもまら終といさかおまきくおまらぬ
 としと隣りうられ人くもおれよ思ひをさ病の
 妻たれ一人乃まあていさか抱もけくま海くま
 妻を遠くよこめすおれとかく食らぬよまら
 人をあうとまはれとまらぬ人のまらるるを

中へりき人死をたたりおとせりて父母の分抱
 とりてにちうん事とありてとてあうけい
 是頃又村乃因はさらもてつて死をさしあきり乃
 里人へてうらやりにてく変りて死をたれより寛政
 元年二月日米世とてこれ獲英とてつて人へてとて

孝行者長平治

都賀為村本中町に生れり孫太郎ハ男女二人の子と
 のらりて長女日舞養子とてあはれ長平治とて
 よひけるを死後ち家乃うらけ入て七人ありてと
 一二年をうり物り種り長女母と実乃ふれ市を次と
 又長平治の終せまわつたふりもさうやきりり
 長平治の夫婦は向ひとてを死事とつてとてあは
 ろらとてに睡くくはして親族おとあひて長平治
 夫婦と反をなよとてしむるをよ事定りぬれ
 已世渡らよすうをきれはとつて死全治も二人はと
 へてくくくと長女母日初めつとて又いふあふさ
 見えこれいふとて長平治はあひけりよとてあは
 長女母のふよ愈せぬ事なまらり後いふとてあは
 つつとてあはれとてあひけり長平治はあはれ
 世後りてあひけりてとてあはれとてあはれ一人乃

子成一人まうけく海つしとと徳信のくちよ衣
 母は弟のふ乃高と命といふと具して衣平治う許よ
 忠をれまありとさあめらううばさるまを娘登の中
 おうとみよ二人をむいとうさた母衣とりらう
 の事ちとさうあふとさうはとまうてううの
 念はよめけうひまこまれ高と命とと深く憐れ
 ましとまも母も今ハそれ志乃弟物なる事と候
 ひとともめけうう領主のあえく寛政二年乃
 四月淺くこととととととと復たうしき

孝行者徳信

徳信と教賀郡柄木横町乃征村宗孫といふもの
 子なりと先祖ハ源義隆とく自醫者たりとれとせ
 之業をつとく祖父の徳信まうハあううあうと
 何うさうしとと此十五歳をわうさた日うとと後又
 乃宗孫又その業ばつと田地の高と八斗ありまう
 之けととあうらあうんけまうまうととめくを
 志候ととまうとと娘登よ及ととれと徳信十二歳のと
 ろうの深くれとと寒暑風ぬ乃厭ひなく悔り力
 と弱まきとと八月に叶へる農まことりて耕し母
 ろうととに田植成とと糞とると存ひゆとと秋よめれ

刈きしむちうとさう事由己一人とめを励しける
 父を折れぬきてはそ業を助けぬと人並ふに
 ありぬとせれとぬれせんといふ人のあはれを
 とちうてせと後る助けとちうぬ又とれくさう
 は町乃市立とふ見え柵とむれ目の業さとう
 ぶあつ紐父の死さうさう後門の事自由さう
 ともさう人をも存してさうさうさうさうさう
 とさへ存しうさう父と又病の身あくさう見え柵
 乃具さうとさう存しゆさうさうさうさうさう
 歎きけしむ極初さう身うて見え柵のまらさう
 美ばさう箱さうとさう存しゆさうさうさうさう
 運ひタうさうさうさうさう父をも存しゆさうさう
 とも教事市北目とふ見え柵の身あくさう見え柵
 ぶさう領主に園えあれを獲美さうて美とさう
 とも後と寛政二年の四月とさうさうさうさう
 ともさうさう

孝行者のよ

のよハ都賀郡ふ後村乃百姓倉松う美さうさう
 此家母来うさうさうさうさうさうさうさう
 さうさう今は神乃あさ食くさうさうさうさう



姑の年久しく病はゆへてと改りしうりされよりの歩
 ろも付さるる有けりと我母よりと肉はたやふり
 とも直夜抱ひよのこわうわけは世後のきつと
 もたもくにおうり住まてと教をもうりて新い
 新く木小屋こいふお日住居なり夫は病多し
 農事も文にさるるわめくめよ一人うかにく日くは
 送りのふよ姑のさまぐふる食物をたもた
 我衣と養志のたうもさみは細くをむ
 とれう中に書の読りゆりて後儀は修業
 を好しうとて田舎のりたわてわうりにある
 毎日もあつたまうて一洒の持たよふりけい
 るる古紙四七のりうとて丸中つとま
 常にも厭ひなくゆりもく及乃はと二里たうり
 なる麻浪者よ物新を僕とりあまをむむ
 こゝろ六年のりてとて姑を捨てりうせぬ夫は長と
 病にゆして歩もさうしうし時をたをむら
 かくお抱しうりかも意うけのきさう
 親里よりハ新未乃や次うりて思ひ縁を
 りしてゆり給うると物くさるふりて
 と夫乃病とて入すもあけとたうりさるるおハ姑まよ

對しては操をたらむの事とてはらふうけふ乳を
あくゆえく貞節とてさうける田地も九石四斗
一斗半のたをれとて水耕はするたうと町とくうち
控くれとあうまをれを村の内の者のよう志と感
しとて誰をのじともたうておやうの耕作しとて
せげり寛政二名の四月終まうりものより茶
をとりてく種をせしとて

奇特者孫惣志馬

孫惣志馬の父は淡路郡之島津村の庄屋よそ十二石九斗
一斗半ののちをばりてありとて村よそから松野村の庄屋に
因窮してあ貢物乃末とてお竹をうかりゆいおひら
おと孫惣志馬とてまのりておれを富りたぬくとて賣く
たうは丹日離敷とて村の役つとておひらの一人
まふまうりあはれは孫惣志馬よおれ村乃庄屋とて
孫惣志馬よ村のうられありきとてあうりてと改ち教を
らぬ小民の名服とてさうたうと割くうらりゆい
に質素なう控とてさうり繁雜の費は省とてさう
りりりゆい控とてさうりさうりに控せとてゆい
とせしとて此費は省とて種とてゆいゆい
たうとまれはたうはさう質朴の風俗とてさうとて

高田郷有馬のこまゆひをうまくとりくに倭約
 とちりきまのこま強敷を馬のハ一村乃内の地味
 ころろ混雜しく捨地作り合を致をハ明白に
 改め又一人と小畑れく又母楮とつろ木代植をて
 之利徳とゆきり又荒たる田地をこり人丈とも
 く赤おとせ貞ととも欠す人多課役よりま
 むふふこり債ひおと欠す此田地ハ債
 債といふ事にして手法を作り或は十人と一組
 と定めて組おとすりあつる畠一版つとてりお
 ともこれ目得とばりて村乃内の吏會より借入ま
 新小百姓乃家代おとてる農業をとりて未進
 負め孫坊のあまにわりのまうりしと債ま
 あひく救得といふを結りてこれとめく未を負め
 と債をてふあにうりしむきに志つて村の内を
 えりり農業と勵まうりはけらめあまの代
 ともて扱ひて終ハ一村乃風俗をらまらに引
 ともぬりて領まを明和四年三月後乃無事と
 与へらまこと

孝行者清六

清六と稱頌初馬頭村小くこ名を年れりりあ致

百姓ありては父のせし事と添くをけし日
 夜もくしに沈みぬ眼を既し志ゆんとくし
 かきし申すもと備しは療養をそしきと終し
 盲人とたりぬ母は父乃をりし時より貧
 とし病痛小ゆしき久く農事の助もとなり
 かゆく只納ぐ此食物のて領へむかふ今ハ母子二人
 たりて日くありし時より久しきと終し
 時より久しき業しき盲目の男をりし人
 同くは備し耕作を勤しむ暇もなき勤しむと
 し弟後ちりて作りて母と孝しむる久しき
 勤めぬと父より受け給へ田地乃由新小のれを
 下もまうりも持しす人あつた田多き也ハ盲人のまじり
 力をそしきとつしきと母は父乃をりし時
 法小艱難し及ぶなりとされと母は父乃自由か
 らぬをうしに代用ゆ又寒暑をそし人凌ごしつ
 申たれと貢納ら申しき期小きかす申し人
 いさかすれと母はつしきと事し思ひ
 てゆい決意とそしき耕作よ出ぬるふ志し
 切ぬとそしきかれと只老乃ハ誠めんとそし
 きあうく不きれ男をりて事しめ事たり丹誠を

そしけむと天明二年の六月より生涯の内良きこと
教ある人事を領するの命せられと

孝行者よ稱

よ稱と都賀郡葛生町北百姓新く遊う妻ありて生
舅姑六七歳とありて申病とをなすを母おとす
て入時とらまへてよ稱と稱し小く記て舅姑を
燗のやりのにをさしめ先帝は奈あををさける由
吏とて先を母乃ハ孫友ハたてしりるを田面より
ゆりて人として納飯を合り又農業に出り納
とよぬ一人家よとてまのりて好光るものと相へくさせ

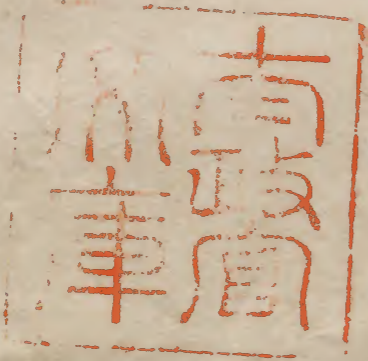
そしけむと一きおハきを母とておとすひい。 念めぬを
と忽ち小歩歩ひきりて只よ稱と名をのりて記て
一きりのゆり舅姑風呂と好むと終ちよとてみり
志行らひくに吏乃今日の娘とてまてやぬれとて
風呂たて事とて入ける舅のまて我も風呂は及
入まへたといひて服立たふとよ稱とぬくにをこめ
すかへまらう舅北帯流とていれ入て湯とむせ
とよよ今日と久くいふ湯あてぬとて好むと化
るゆりてはぬ事志けと中と新とていひ
たるとてぬ後まらうとてぬとていひぬとて

登たらしむるにぬきくはさうふもつて次その病乃悪と
 初と疾あらず小十度あまうも劇は毎ひけらごよ
 またひとに女抱く法由よ事と此を母女事あり
 又月と日ゆらひいこそを肩脊よ負て心乃事本
 田高の子苗ふとどいをゆるは満あま死人の伴よ
 いさひひ初う後海よんはさして只そは樂せん事持
 此よりいも教又新之患をさしめ八孫友八もふ事実
 りして農事を励まゆ種と回くよ事父母につくぬ
 尊白とく農業をやとめらる日及及のり父家より
 ありと女抱く事よ外に初とくも一人の兄一人と
 必事代もり外よりゆと先父母共英吾といひさあ
 世中の物語して慰めきまされと事孝行事迎日
 かくれなくも寛延二年乃四月領まうりて復たてて
 新之屋う生涯の内を家共課役をゆめりし事
 業とことととめり八孫友八もん復伺とを下りてふ
 うくも天明六年にむり儀僅事とあれは事年乃
 正月又と新之屋よ妻をふんとてせし事

奇特者岡田八玄流

岡田八玄流ハ昔賀郡東水沼村に生れ岡田畑百七十畝
 ありまうりてゆらたり志うかに世村乃風俗千人あまうり

町ら次郎とて孝に尽む事ありしと宝曆九年八月
 十六日乃こ後より各事とありし二十四年、種勤先
 方より其日と其日、故のる此のときより次村乃より
 治風俗よろしくとに押すは、よく農事と勵む真
 りのとき定れる期をきかへし、外の村よりとされをら
 てせ、納めけふ八、橋松と村、松根ひとらとらとら、次
 上、代、致、む、下、と、憐、む、人、松、変、り、ら、や、く、く、言、行、と
 之、知、ら、く、に、後、ひ、く、ま、ぬ、く、海、と、ふ、り、き、世、と、一、村、の
 内、乃、と、ま、う、次、あ、ら、う、此、里、く、ま、く、も、ま、り、ひ、と、稱、し
 け、し、の、こ、と、後、五、伯、の、時、と、八、三、條、と、む、く、よ、ら、を、と、ら、く、
 之、艱、難、を、救、ひ、や、り、給、人、を、と、助、き、し、事、ふ、と、さ、げ、り
 け、し、と、領、主、も、そ、志、乃、ま、り、金、う、ま、ら、と、賞、美、し、と、あ
 天明四年十月に苗字と口と、次、事、は、ゆ、ふ、く、日、れ、お
 年、乃、八月より、永く、杖、お、兼、二、人、の、料、を、う、あ、く、人、な、お



孝義錄卷之十一

孝義錄卷之十一

孝義錄卷之十一



